

14 番（小川義昭議員）

私は、やはりこの市行政の大きな役割というのは、市民の生命、財産を守る、そして、安全・安心な生活が送れるようなそういった市政、これが私は我々に求められているのではないかなと思います。ぜひ再考をお願いいたします。

4点目の質問は、本庁舎と公立松任石川中央病院間の公共公益ゾーンについてであります。

私は、今からまさに13年前の平成23年9月定例会を皮切りに、本庁舎の南側と公立松任石川中央病院間の土地の利活用問題について質問しました。以来、幾度か質問を重ね、直近の質問は令和4年12月会議であります。

そこで、庁舎と中央病院間の土地利用の在り方、拠点構想についての私のこれまでの提案内容と、それに対する当時の山田前市長の答弁内容を振り返ってみたいと思います。

まず、私の提案内容は、この区域を医療、福祉、介護などの総合施設として集約整備し、健康センター松任をはじめ、福祉ふれあいセンターなど、本市の健康・福祉部門の施設及び機能を統合すると同時に、市内に点在するハローワークや税務署など、国の施設及び県の保健所、農林総合事務所や土木事務所などの施設、さらには、あさがおテレビなどの市の施設を当該区域に集積統合し、公共公益施設の集積ゾーンとして新たな都市再整備を行ってはいかがですか。そのことにより、中心市街地活性化などのまちづくりに向けたコンパクトシティの推進が図られ、行政と医療、福祉、健康機関及び中央病院や金城大学が一体となり、雇用の機会が増えるだけでなく、多くの人たちが集い、にぎわいも創出され、より一層の行政サービスを市民の皆さんに提供できる拠点エリアになるのではないのでしょうか。

また、ハローワークやあさがおテレビなどの施設が移転することによって、松任文化会館一帯に広大な駐車場を確保する余裕も生まれ、確たる青写真に沿ったまちづくりが可能となります。

少子高齢化社会を迎えたこの時期、人口減少の歯止めには、人が、特に若い人たちが集まるまちづくりが求められており、これらの課題の解決が期待できるのもこの場所、この区域だと思いますとの私の提案に対し、当時の山田前市長は、令和2年に策定した第2次白山市都市計画マスタープランの中で、当該区域を含む松任中央区域においては、人々が集い、憩い、にぎわう、活力あるまちづくりを方針として掲げ、JR松任駅周辺から市庁舎周辺に至る中心市街地では、公共施設や商業施設などを積極的に誘導し、都市機能が充実した白山市の中心地としてふさわしい市街化づくりを推進し、庁舎と病院間の土地利用の方針については、都市機能の集積を図る公共公益ゾーンとして位置づけており、地元の意向も踏まえ、公共公益施設を中心とした土地の有効活用を考えていますと答弁され、また同時に、本市の健康福祉部門の機能や、国・県の公共施設の集積統合や誘致の推進を検討することは、行政機能の中心地として、また、まちづくりの観点

からも大切なことでもあります。当該区域は、都市計画マスタープランの基本方針である快適な生活を支え、効率的で持続可能なまちづくりに基づき、都市活動に必要な施設を凝縮し、便利で効率的なまちづくりとなるよう、地元の意向も踏まえて検討を進めますとも答弁されました。

さらに、国や県に対して、施設統合の誘致や立地に向けての働きかけ、そして、この事業の中期事業計画への組入れは、国・県の意向も察知せずに独り歩きしてはいけませんので、しっかりと打診しながら、また、地元の皆さん方にも意向を聞きながら進めていきます。さらに、市単独の事業ではないので、相思相愛になるような努力は今後とも続けながら、その時点が見えた時点で中期事業計画にのせていくことが適当でありますとの答弁をなされました。

そこで、昨年4月に山田前市長の後継となられた田村市長に改めて提案いたします。

まず、この公共公益ゾーンに医療、健康、福祉、介護など、本市の健康・福祉部門の施設及び機能を統合してはいかがでしょうか。

すなわち、健康センター松任は、建設されてからかなりの年数が経過し、施設内に併設されたプールは現在使用されておらず、設備や建物の老朽化が顕著に見受けられます。

また、地域福祉活動の拠点施設である白山市福祉ふれあいセンターの機能をこのゾーンに集約移転することにより、一層の機能の効率・効果が高まりますし、機能を移転した後の福祉ふれあいセンターは、市民ボランティアの方々にとってさらなる交流ができるセンターへと機能を拡充させることができるかと思われまます。

そして、次に、市内に点在するハローワーク白山など、国の施設及び県の石川中央保健福祉センター、農林総合事務所、土木事務所などの施設を集積統合し、公共公益施設の集積ゾーンとして新たな都市整備を行いますよう、県や国に働きかけてはいかがでしょうか。

また、国の施設であるハローワーク白山が同ゾーンに移転することにより、松任地区で開催されたミライ会議において、田村市長が市民の皆さんから指摘された松任文化会館や学習センターなどの駐車場不足問題に対しては、移転後の公共施設の跡地を駐車場として活用することにより、駐車場不足問題は解決されますし、同時に、I R松任駅南側に位置するそれぞれの文化施設の稼働率も上がり、文化ゾーンにおけるさらなるにぎわいの創出につながるのではないのでしょうか。

この公共公益ゾーンに、本市の健康・福祉部門の施設及び機能を統合し、そして、国や県の施設を統合・誘致することが可能となり、公共機関が同ゾーンに集約されれば、行政はもちろんのこと、新しく増改築され令和9年に完成予定の中央病院や金城大学をはじめ、医療、健康、教育、福祉、介護などあらゆる分野が今以上の連携が取り合えるゾーンが築き上げられます。

そして、何よりも白山市民の皆さんが、この公共ゾーンに来れば、いろいろな手続が一度で処理できるなど、市民の皆さんにとっての利便性が大いに高まり、喜ばれること受け合いであります。

現実的に、市・県・国による合同庁舎の建設が不可能だとしても、土地の分譲方式による県・国の施設統合の誘致や立地について、県及び国に対して働きかけを行うことが急務かと思われまます。

ぜひともこの統合、誘致構想が絵に描いた餅にならないことを願います。

そこで、4項目について質問します。

1つ目は、これまでの私の公共公益ゾーンに関する提案、そして、その提案に対する山田前市長の答弁は今申し述べたとおりであります。

つきましては、田村市長が山田前市長の後継者として市長に就任されてから公共公益ゾーン構想の提案は初めてでありますので、今ほどの私の提案に対しての御見解をお伺いします。

2つ目は、当該土地は農地であります。したがって、地元地権者の皆さんに対し、公共公益ゾーン構想は伝わっているのでしょうか。

また、国や県に対して、施設統合の誘致や立地に向けての構想を提案したのでしょうか。

3つ目は、庁舎と中央病院間の土地利用問題は提案してから13年が経過し、公共公益ゾーンとしての位置づけから3年間が経過しています。その間、数年前に税務署が増改築されました。また、県のそれぞれの施設も老朽化により建て替えられる可能性があります。公共ゾーンとして真剣に県や国の施設を誘致する構想であるならば、段階的に計画を組み立てる必要があるかと考えます。

そこで、公共公益ゾーン構想の中期事業計画への組入れ、そして、開始時期をどのように考えておられるのかお伺いいたします。

4つ目は、松任地区で開催したミライ会議においても、住民の方から指摘された慢性化している松任駅前の文化ゾーンの駐車場不足の問題に対して、今後どのような対策を考えておられるのでしょうか、お伺いします。以上、4項目についてお考えをお聞かせください。